

ビデオ 通信

2025 年
9 月 18 日 (木)
No.4894

月・木曜日発行
月額：¥11,000 (税込：¥11,880)
発行：飯澤 剛
編集：齋藤 浩一

ユニ通信社

〒114-0024
東京都北区西ヶ原 3-57-17-202
TEL：03-5422-7515
FAX：03-5422-7516
E-mail：vt@uni-press.net

パナソニック映像

「長期タイムラプス撮影サービス」を本格稼働

8K 高画質撮影・遠隔監視・クラウド保存・映像編集をワンストップで提供

ターゲットは建設やインフラ工事など長期プロジェクト



「長期タイムラプス撮影サービス」で制作された大阪・関西万博 パナソニックパビリオンの建設の記録

パナソニック映像(株)が、建設やインフラ工事などの長期プロジェクトを写真と映像で記録するソリューション「長期タイムラプス撮影サービス」を本格稼働させた。同サービスは、タイムラプス撮影した写真データと、それを素材とした映像でプロジェクトを記録するもの。タイムラプス業界のパイオニアである

SKYPIX JAPAN が独自開発した撮影システムとノウハウを継承し、さらに独自のアップグレードを加えた。パナソニック製一眼カメラ「LUMIX」による最大 8K の高画質自動撮影、ネットワークを活用した遠隔監視、クラウド保存、映像編集までをワンストップで提供する。単なる現場記録にとどまらず、報告・広報・ブランディングに活用できる“価値あるコンテンツ”として仕上げる事ができる。4K 一眼カメラ+撮影システム一式、希望映像尺への編集を含めてワンストップで対応し、期間についても、短期のものから数年単位のものまで要望に応じて対応する。同社では建設・建築・公共事業を主なターゲットに認知度アップを図り、事業を広げていきたい考え。なお、同サービスではすでに大阪・関西万博のパナソニックパビリオン建設の記録映像等を制作しており、同社 Web サイトの特設ページや YouTube の Channel Panasonic-Official で公開されている。

SKYPIX JAPAN の撮影システムとノウハウを継承

タイムラプスとは、同じアングルから一定間隔で撮影した写真をつなぎ合わせ、時間の流れを表現する動画やその撮影技法。

パナソニック映像の「長期タイムラプス撮影サービス」は、最大 8K の高画質収録とネットワー

クを介した遠隔監視を両立し、長期間途切れることなく安定した美しい記録を可能にする。日本における長期タイムラプス撮影の第一人者である SKYPIX JAPAN の撮影システムとノウハウを継承し、高解像度撮影とクラウド連携による遠隔監視を実現した点が大きな特徴。さらに、遠隔で進捗状況を確認できるほか、事故による停止を防止。独自開発の「全天候型ケース」(写真→)により、年単位の長期プロジェクトに対応できる設計となっている。

要望に応じた映像尺での編集に加え、RAW データの記録による高画質化やカラーコレクションも可能。ただ記録するだけでなく、PR に活用できる美しい映像作品として納品する。



きっかけは大阪・関西万博のパナソニックパビリオンの建設記録

サービス開始のきっかけは、あるクライアントから「タイムラプス業務を依頼できないか」という要望があったこと。

プロダクショングループ プロデューサー／ディレクターの安楽直樹氏は〈長期スパンの仕事であり、しかも大阪・関西万博のパナソニックパビリオン建設が対象だったため、失敗は許されません。様々な対策を模索した結果、高画質と遠隔監視を両立できるシステムを持つ SKYPIX JAPAN とタッグを組み、撮影を始めました。その後、SKYPIX JAPAN の担当者から「事業終息を検討している」とお聞きして、当社としてこの事業に価値があると感じていたため、システムとノウハウを継承できないかと打診し、改めて当社がサービスを展開することになりました〉と振り返る。

使用するシステムは、SKYPIX JAPAN から受け継いだものに加え、パナソニック映像が独自にカメラや電源制御系をアップグレードしたものも含めて 3 台同時運用が可能。現状、ニーズ次第ではさらなる台数拡張もできるという。

高画質撮影・遠隔監視・長期間・ローコスト

建設やインフラ工事の記録には監視カメラ映像が使われることもあるが、長期にわたって動画を撮影し続けるにはカメラの耐久性に課題がある。また、カメラ本体に搭載されたタイムラプス機能を利用した方法も 1 ヶ月程度なら対応できるが、それを超える場合には違ったアプローチが必要だ。

プロダクショングループ セールスプランニングチーム プロデューサーの福田夢氏は〈タイムラプス専用の工事監視カメラやネットワーク監視カメラの流用では、画質や画角、彩度などに問題があり、映像作品としてのクオリティを確保できません。また、新たにネットワークを敷設する必要があるなど大掛かりになります。当社のサービスは、高画質撮影と安定した遠隔監視を長期間・ローコストで実現できるシステムとして提案しています〉と語る。

三重の記録体制とクラウドの活用

タイムラプス撮影した画像は、安全性と冗長性を確保するため、「クラウド」「ローカル SSD」「カメラ本体の SD カード」の 3 系統で収録する。

クラウド活用のメリットについて、プロダクショングループ プロデューサーの神田忠輔氏は

〈遠隔からその日の様子を確認できることに加え、半年や 1 年、2 年など途中経過を動画化して進捗報告したいというニーズが多くあります。その際、現地のメディアからデータをコピーする必要がなく、クラウド上でこれまでのデータを集約して映像化できます。静止画ベースなのでデータは軽く、アップロード／ダウンロードも容易です〉と説明する。

記録フォーマットは jpeg と RAW の両方を保存し、jpeg はクラウドにアップして遠隔監視や進捗確認に使用、全撮影終了後には RAW データを用いた編集とカラーグレーディングといったワークフローを推奨している。

解像度を最大 8K まで対応させた理由について、安楽氏は〈4 年後に完成予定の案件を 4K で記録すると「4 年前の画質だ」と言われる可能性があります。一方、8K で撮っておけば、将来の基準でも通用する画質として残ることができる。その素材をもとに 1 本の“映像コンテンツ”に仕上げるのが当社ならではのサービスです〉と話す。

実証実験で耐久性を検証

同社では、東京オフィス内にシステムを設置し、許可を得て天王洲運河対岸の様子を定点撮影する実証実験を行っている。撮影時間は朝 5 時～夜 8 時の 15 時間、撮影間隔は 15 分ごとに 1 枚とし、1 日あたり約 2 秒分の映像を記録する設定となっている。

安楽氏は〈猛暑の中でも問題なく動作を続けており、年単位でも耐えうるシステムになっていると考えています。システムはボックス内に格納されているため、風雨や天候の影響を受けず安定した撮影が可能です〉とし、福田氏は〈猛暑や豪雨といった環境下でも安定稼働できるかの検証を続けています。37℃近い気温で直射日光が当たる過酷な条件でもカメラや制御系が正常動作するかを確認し、今後のアップデートに反映させたい〉と補足する。

停電時にはシステムが停止するが、毎日の遠隔監視で状況を確認できるほか、毎朝自動的に立ち上げ直す仕組みを導入するなど、長期的な運用に耐える工夫が施されている。

まずは“記録”領域での認知度アップ

同社は「長期タイムラプス撮影サービス」のクライアントとして、建築・建設・造船・公共事業など、長期にわたるプロジェクトを想定している。

神田氏は〈年間を通して、約 10 件が常に稼働している状況にしていきたい〉。福田氏は〈従来の記録映像を、動画ではなくタイムラプスで記録するニーズは確実に存在します。単なる記録にとどまらず、お客様の要望に応じて複数種類の映像を制作することも可能です。まずは“記録”の領域から入り込み、そこから様々な展開をしていきたい〉と話している。



(左から) 神田忠輔氏、安楽直樹氏、福田夢人氏

◇特設ページ <https://group.connect.panasonic.com/pvi/time-lapse/>

◇ YouTube Channel Panasonic-Official <https://www.youtube.com/@ChannelPanasonic>